

# ぶどうの木

2009年1月  
第87号  
聖アウグスチノ  
カトリック葛西教会

東京都江戸川区中葛西1-10-15  
03-3689-0014

## わたしは彼らに永遠の命を与える

(ヨハネ十章二十八節)

主任司祭 トマス小崎 柴田弘之

皆様、主のご復活おめでとつございます。

初めて葛西教会に来られた方から「家庭的な教会でいいですね」と言っていたのだという経験をお持ちの方もおられるかと思えます。日本語ミサ、英語ミサを問わず、そのような言葉を聞けるのは嬉しいことです。これは小教区のサイズにも関係していると思いますが、来られた方々を歓迎する雰囲気皆さんから感じ取っておられるからだと思います。いずれにせよ、教会共同体、信仰共同体を捉える上で「家庭」がひとつのキーワードになっているような気がします。私たちが真に「家庭的な教会」をめざすためにはどうしたらいいのだろうかと改めて考えてみました。

まず生まれ育つ家庭を考えるなら、私たちはだれもそれを自分で選ぶことができません。気付いたときには親、兄弟姉妹、祖父母に囲まれ、ある家庭の中に場を得て居ついているわけです。そして少なくとも幼いうちはこれこれの仕事をして家の手伝いをするならば置いてあげる、といった条件付きの境遇でもありません。子どもは家庭では無条件に親から愛され、この世界で

の仕事をしているからこそ自分は家にいる権利があるのだと主張できる、といった類の関係でもないでしょう。この安心感はやがて社会に出て自分の居場所を見つけていくための確かな土台となるものです。

その反面、家庭内には外の人にはわからない暗い部分が存在するという現実も否めません。自分の子ども時代を振り返って、暗い思い出が何一つないと言いきれる人は珍しいでしょう。家の中にはよそ行きの服を脱いでくつろぎ、普段着で生の人間同士がぶつかり合う場です。家族の一員を尊敬することは外の人を尊敬することよりも概して難しいものです。家庭内の難しさは、ある意味で「逃げ場がない」密度の濃さから来ているのかもしれない。

「家庭」と対をなすものとして「職場」を考えてみるとわかりやすいかもしれません。職場で生涯にわたる友人や伴侶に巡り会ったり、気心知れた仲間ができることもあるでしょう。しかし職場ではまず各自が自分に与えられた役割・機能を果たすことが求められます。特に今の時代はその業績如何によって厳しい評価が下され、時には経営方針によって冷たく割り切られます。ですから通常は心の内面を吐露できるような場もなく、人間関係は希薄になりがちです。

自分が受け入れられていること、「自分の居場所」が確かにあるのだというゆるぎない安心感を体得していくのです。成長するにつれて家の仕事をまかせられもするでしょうが、その仕事をしないならば追い出されるといったものではなく、またその

カトリック教会はしっかりと制度・構造を持った組織です。その面だけを見れば企業体と似ていると言えるかもしれませんが、これは教会の一つの側面に過ぎません。教会は何よりも神によって呼び集められ、その息吹きによって日々生かされているキリストの体であり、聖霊の神殿です。「風は思いのままに吹く」のです(ヨハネ福音書三章八節)。何を成し遂げたか、どんな功績を積んだかといったことは大切ではあっても教会では第一の目的とはなりません。まずは洗礼を通して招き入れられ、そこに居させてもらえる、一員とされたということを喜び、そしてミサを中心とするこの交わりが終末における神の国の宴につらなるものであることを心から感謝できる民の集いであるということです。その意味では教会は家庭に似ているかもしれませんが、自分で選んだというよりは神に導かれてここに居るのであり、どんな立派な仕事も、それがキリストに仕えることのできる深い喜びとつながっていないければ、空しい人間のわざとなってしまう。

「わたしは彼らに永遠の命を与える」とイエスは約束されました。この約束にゆるぎない希望を置いているならば、信仰による家族は血縁による家族よりもさらに深い部分を共有できるかもしれないのです。教会に集える喜びをもっと深く味わえるように、そして喜びを糧として宣教に向けるエネルギーをいただけるように祈り続けましょう。



# 信者総会開催される

書記 洗者ヨハネ 道向 新

去る2月22日、10時のごミサのあとに信者総会が開催されました。

50名を超える信者の皆様にご参加頂き、活発な意見交換がなされました。

各部会の報告のときには、各部会の委員の皆さんが紹介され、多くの皆様が役割分担をされていることがわかる貴重な機会となりました。

信者総会資料に掲載されていないこととして、国際グループのクリスマスキャロルによる募金活動は、教会外での活動にもかかわらず、35万円ほどが寄付されたとのことです。国際グループは実に活発な活動をされていますね。

また、建物管理部会は、印刷が間に合わなかったという事で別紙資料を配布しました。2008年から、改修工事特別会計を通常の予算管理とは別に管理することや、ミサの中で、通常献金とは、別に、修繕のための献金を集め始めたことなどが報告されました。

2010年以降の役員選出のスケジュールについては、今後も検討していくこととなりました。質疑応答の中では、教会学校へもっとも協力して欲しいという要望が出されました。

また、信者名簿の内容について、引越しの時期でもあるので、異動がある人は、事務所の日高さんにご連絡いただけるよう、お願いがありました。

# カトリック葛西教会 修理改造について

建物管理部会 ヨゼフ大津謙一

カトリック葛西教会は一九八五年に献堂して二五年になろうとしています。江戸川区松江に葛西教会の前身である松江教会が聖アウグスチノ修道会司牧のもとに、献堂したのが一九六九年ですから松江教会から合わせると四〇年になろうとしています。一九九四年に松江教会から合わせて二五周年記念式典・ミサが行われました。

その時期に葛西教会は十年ほど経っていましたので外壁の吹付タイル（献堂時は予算の関係から素地のまま）や屋根コロニアルの塗装をしています。又、二階修道院の厨房、食堂の改造や、一階台所の移動拡張、外階段下のトイレ、二階研修室やバルコニーの増築、改造をしています。

以前より、台風や風雨の向きによっては西側外壁、塔、北側低層部に雨漏りがあったのですが、漏れの箇所の特定は難しくその都度、予測される範囲で補修を行ってきました。前記の大修理から十五年ほど経ちました。今、葛西教会をさらに維持し、よりよく使っていくために、大きな補修の時期にきています。そこで昨年建物の雨漏り委託調査を行い、補修の対策をどの様にしていくか方向付けを行いました。具体的には屋根の塗装も大きな費用がかかりますので、現在の屋根材を残したまま、金属屋根を被せることによってより安心できる方法を取りたいと考えています。又、塔の屋根や壁、香部屋のある低層部の屋根も対象です。

西側の外壁については、有効な方法を、費用をあまり掛けずにできるか検討中です。又、東側の外階段や、バルコニーの

床や屋根の補修、外壁全体の塗装も行いたいと考えています。

このような外廻りの補修、改修が実現していけば、次は、御聖堂などのクロス張替えや、建具、床などの補修、衛生設備配管の更新など、いずれは取り組んで行けるものと思います。

将来の建替えのために、補修に使わず、資金を貯めていったらとの意見は一方にはあります。私見ですが、建替えは金額の桁が違いますし、十年、十五年以上かかることでしょう。それには、全く別の取り組みが必要です。（大災害も同様です）

今、教会を支える信仰、修道院、信徒のために、又、教会を新たに訪れる人のために、又、補修の為に献金に応じてくださる方のために、（補修等に）費用を掛けることは必要と考えてはいかがでしょうか。

建物部会が発足し、新たな取り組みがはじまりました。わたしたちが、何をなすべきかを知り、なすべきことを実行することができそうですように、主キリストによって。アーメン

（レイアウト・表は、大きなパネルが教会に掲示されていますので、ご覧ください）

<p>4000万円 内：工事費：カウンス タイル 壁、サイン ズ</p>	<p>約1500万円 工事費：カウンス タイル 壁、サイン ズ</p>
<p>約1500万円 工事費：カウンス タイル 壁、サイン ズ</p>	<p>約1500万円 工事費：カウンス タイル 壁、サイン ズ</p>



# 次兵衛会 発足!

パドアの聖アントニオ 本橋 俊和

さみしいから一日一回コンビニに行くおばあちゃんの話聞いたことがありますか? 店でアルバイトの店員から「はい、おつり」とその日唯一の生の声を聞くために行くんだそうです。そんなお年寄りを私たちの葛西教会からは一人も出しちゃいけない!と思う有志が集まって出来たのがこの会です。おしゃべりをする相手や場所があれば誰だって話をしたいのが善意の人間ではないでしょうか。そんな善意の人たちが集って共に食事をすれば自然に分ち合いが出来ると考えたのです。「次兵衛会」にとって大切な部分は共に食事をする事です。食事が、知らない人でもリラックスして話が出来ると触媒やクッションの役割を果たしてくれます。この分ち合いを続けたいと一人暮らしになってもお互いに支え合い訪問しあうような関係が熟成されていくのではないかと。これがこの会の理念です。ですから続けて行くためにご負担にならない程度の会費を頂きます。そしてまた、トマス金鍔次兵衛神父様の殉教の精神をいつまでも忘れなために、出発の日を列福された2008年11月24日とし、会の名称も「トマス金鍔次兵衛会」(略称「次兵衛会」としました。数回の打合わせから、やるのなら早いほうがいいというところで見切り発車を承知のうえで2月1日に昼食会を開催することになりました。あわただしい準備の中から柴田神父様がこの会のために「祈り」を作ってください華が一つ加わりました。

この会の強みは自己を顕示したいとか、自分の名を残したいと思う人が一人もいないことです。年齢を重ねた分だけ天に宝物をたくさん積んでい

るお年寄りの笑顔が見たい・喜んで帰ってもらいたいと、一人ひとりが掛値なしに思っています。主役は他者にあるのです。ですから、「それ私がやります」「それでは、私がこつちをやります」という具合であつという間に奉仕の役割が決まって行きます。まさに神の計らいを感じるのです。昼食会後、「楽しかった」「あつという間に時間が過ぎてしまった」「次、いつやるの」といったお声をお聞きすることができました。この声だけで世話人たちはうれいのです。トマスホールをあとにする笑顔とお送りする笑顔、久しぶりに見る豊かな笑顔の波でした。

イエス様がおっしゃった「私の名によつて集まるところにいつも私はいる」ことを誰もが実感できたと思います。なかなか教会に来られない一人暮らしのお年寄りへの対応などまだまだやらなくてはならないこともたくさんありますが、当面このメンバープラス若干名で経験を積上げたいと考えています。パウロが「人は少しづつ変わっていく」と言ったように、この会もいっぺんにはなくても一段一段階段を上るように遠いかもしれない理想の姿に向かって進んでいきたいと考えています。会への入会は「好機高齢者」前後の年齢から上の方なら誰でも熱烈歓迎ですが、人の活動や奉仕を善意に受取れない方はむろんお断りです。建物で例えるなら隅の親石が見つかったばかり、まだ柱を立てている過程で雨・風を防げるものになっていません。たった一人の心無い悪意の発言が積み重ねてきた物を台無しにしてしまった例を私たちは知っています。誰もが「さみしそうな顔」「悲しそうな顔」を見たくないのです。この集まりが葛西教会の恒例行事になりお年寄りから若者までを元気にし、ひいては教会全体の活性化に繋がるために聖霊が働いてくださるよう、皆様方のお祈りを心からお願いたします。



## Generosity Inspires more Generosity

Four years ago our choir of the 4:00 o'clock felt that the church need new guitars. They decided then to raise funds to be able to buy 1 or 2 new guitars. By caroling every weekend at Christmas time they raise enough money to buy 2 Yamaha guitars. The following year they felt that if the hymns are projected on the screen the participation at mass will be better, so they raised money again through the same way and bought an LCD projector, screen and a 2nd hand lap top. By the use of power point the participation at mass improved greatly. Since the 2nd hand lap top did not last long, another generous person gifted the church with a brand new one.

This year when we were informed that the church will need repair and that this will cost much, the choir once more went caroling at Advent time to raise funds for this. So far this is the biggest amount they were able to raise which reached 350,000 yen. What a big surprise to all of us. They worked so hard, starting at 6:30 p.m. and at times finishing after mid-night. Since all of them are engineers working at an engineering company it is only on Saturdays that they could do this.

When some ladies attending the afternoon mass heard this they began organizing themselves as a cooking group. They sell what they have cooked at the end of the Sunday mass and to our surprise would make about 20,000 yen more or less. It is not so much the amount they make for the repair of the church that matters but the love that they put into this to help the church. It brought them to work together, Filipinos, Indian and etc. for a common purpose. It is a joy to see them working together, Filipinos, Indians and etc., not minding their fatigue since most of them are housewives who need to do household work and attend to their children.

Sister Remedios Locsin,r.a. (Sister Remy)

## 気前の良さがさらなる気前の良い人を生む。

4年前のことです。4時の英語ミサの聖歌隊は伴奏用のギターを新しく購入することを思いつき、1本か2本のギターが買えるだけの寄付を募ることにしました。クリスマス期の毎週末、彼らはクリスマスキャロルを歌い歩き、ヤマハの新品のギターを2本買えるだけのお金が集まりました。翌年、彼らはプロジェクターを使って賛美歌をスクリーンに映し出せば、皆がもっとミサに参加できると思い、昨年と同様の方法でLCDプロジェクターとスクリーン、また中古のノートパソコンを買いました。パワーポイントを用いたことで、皆のミサへの参加意識が高まりました。中古のパソコンはすぐに壊れてしまったのですが、ある気前の良い方が教会への贈り物として、新品のパソコンをプレゼントしてくれました。

今年、教会には改修工事が必要であり、その為にはかなりの費用がかかるとわかったとき、聖歌隊は再びクリスマスキャロルによる募金をつのり、これまでに過去最高である35万円もの寄付が集まりました。彼らは熱心に活動を続けました。午後6時半から歌い始め、時折真夜中過ぎまで歌い続けることもありました。彼ら全員がエンジニア会社に勤めていたので、活動できるのは毎週土曜日のみでした。

午後のミサに参加している何人かの女性は、聖歌隊の熱心な活動を耳にして、有志による料理の会を結成することにしました。彼女たちは日曜日のミサの後、手作りの食べ物を売り、驚くべきことに2万円ほどの寄付を集めました。教会の修復にかかる費用を思えば決して大きな金額とはいえませんが、彼女たちの愛は教会にとって大きな支えです。フィリピン人、インド人また国籍の異なる人たちが、教会のために一丸となりました。彼女たちは家事や子育てに追われる主婦の皆さんが、疲れをものともせず共に働く姿が見られ、嬉しく思います。

シスター・レミ

### 葛西教会の皆様へ

僅か2年という短い期間でしたがお世話になりました

葛西教会の皆様と過ごすことができたことを心から感謝しております。私たちが祈りを通じて三位一体の愛の交わりに結ばれているのなら、たとえ千年であってもその月日は昨日が今日へと移る夜の一時にすぎません(詩篇90・4)。

きつとすぐに再びお会いすることができるといいでしょう。その日を楽しみにしております。

アウグスチノ 鈴木康由



JFY (※1) の一員として活動に参加させていただいてから、今年で7年目になります。同じ境遇の子どもたちと共に、恒例のサマーキャンプやチャリティーコンサートを行うことによって、私自身、多くの気づき・学びを得ています。当初、やんちゃに遊びまわっていた子ども達がすすくと成長し、今や大人の仲間入りをしようという段階にきています。今後は自分たちが主体となってイベントを企画するなど、自らグループを率先していく必要があると実感しています。

その潜在的なニーズに応えるのが、CISV (※2) が主催するJFYワークショップの最大の目的です。昨年10月から始まり、先月は3度目のワークショップとなりました。日曜日の午後1時から4時の英語ミサの時間まで、計13名の参加者と4名のコーディネーターが葛西教会に集いました。主に、中学校高学年から高校生以上を対象として信頼構築・リーダーシップの育成を主旨とした様々な試みを行っています。前回のテーマはリーダーシップについてでしたが、2月はJFYの活動の企画・運営について学びました。一言で、普段のJFYの活動を自分たちでできるようになろう！ということです。また、具体的にはワークショップの運営と実践、スポーツ大会の草案と企画などを教わりました。

ワークショップの特徴としては、すでにジュニアリーダーとしての経験がある、もしくは今後なりうる青年・少女をターゲットにしているということです。そして、この体験がキャンプを始めとしたその他JFYの活動と日常生活にも直結に生かされること、また中長期的なプロセスを通じて成長が期待できることがこれまでと大きく異なる点です。何よりも素晴らしいのは、何度か顔を合わせるうちに、友情やお互いの信頼関係がより深まったこと、また、それぞれが積極的に参加をし、全身を使って表現している姿が印象に残りました。

このワークショップを実現可能にしてくださっているCISVの皆様、葛西教会の方々へ感謝いたします。これからのJFYの健康と成長を祈って。

当プログラムの見学・参加を希望される方は、身近にいるメンバー、もしくは下記までお問い合わせください。

jfy\_news\_letter@yahoo.co.jp (担当：津田)

## ※1：JFYとは？

Japanese-Filipino Youth Educational Program (日比青少年教育プログラム) の略。1998年に発足し、葛西カトリック教会のメンバーが中心となってバイカルチュラルの子どもたちへの教育・啓蒙活動を行う。

## ※2：CISVとは？

Children's International Summer Villages (国際子ども村) の略。平和教育と国際交流を目的として世界70カ国が加盟し、50年にも渡って各地でサマーキャンプを開催している。

JFY (Japanese-Filipino Youth Education Program) is an educational program for bi-cultural youth, who seeks to learn their identity and learn more about their cultural background. It was founded in 1998 based in Kasai Catholic Church. We are now conducting a series of workshop run by CISV (Children's International Summer Villages) targeted for the youth, Junior High School and above. If you or your children are interested to join our activity, please contact the members or e-mail us in the below address: jfy\_news\_letter@yahoo.co.jp (Yurika Tsuda)



**Hand Game:** 何人かで円になり手を交差させて、順番に床をたたいていく。意外に頭を使うが、お互いの距離を縮め、緊張をほぐすためのゲーム。



**Fax Machine:** 一列に並び、ある絵を前の人の背中に描いていき、最後に先頭の人が紙にその絵を書く。チーム対抗で、スピードと正確さを競い合うゲーム。伝える・聴く(感じる)のトレーニング。



**Train of Love:** 全員円になって後の人のひざにのり、その状態のまま歌にあわせて円状に進むゲーム。簡単なように見えて危険も伴う、お互いの信頼関係が試されるゲーム。

# 洗礼を受けて

ラ・サール 下野 滋俊  
 テレサ 下野 栄子  
 クララ 下野 優奈  
 マリア 下野はんな

二〇〇八年十二月二十一日、私たち家族は柴田神  
 父様、代父母の関根様、そして葛西教会の皆様のお  
 かげで、洗礼を受けることができました。ありがと  
 うございました。家族で教会に行きたいねという妻  
 の一言からインターネットを通じて、カトリック葛  
 西教会のことを知りました。そして二〇〇八年二月、  
 初めて葛西教会を訪れ、佐々木満夫様の「七つの秘  
 蹟について」の勉強会に参加させていただきました。

長女は教会学校で学ばせてもらっています。最初  
 のころ、ごミサでは高取シスター様がいつも私たち  
 家族に寄り添ってくださいました。本当にありがと  
 うございました。

私が最初に聖書と出会ったのは、高校の宗教の授  
 業でした。担当の若い神父さんは学生達に人気があり、  
 多くの生徒が放課後、チャペルに神父さんを訪ね語  
 り合ったりしていました。私も時々神父さんのとこ  
 ろにコーヒーを飲みに行ったりしていました。余  
 りカトリックに興味を持つことなく卒業し、それっ  
 きりになっていました。

そしてこの度、時を経て、再び聖書に接する機会  
 を得ました。

ごミサの中で「主よ、私達の祈りを聞き入れてく  
 ださい」という言葉に衝撃を受けました。毎日の生  
 活の中で頑張ることばかり考えていましたが、神様  
 を信じる心を持って、その上で「主よ、私達の祈り  
 を聞き入れてください」とお祈りすることで気持ち  
 が楽になるようになりました。



葛西教会の皆様  
 さま、今後とも、  
 よろしくお願  
 い  
 します。

1月11日 御ミサで成人の祝福をいただきました。  
 トマスホールでお祝いの会を開いてくださり、たくさ  
 んの方からお祝いの言葉をいただきました。ありが  
 とございました。

気がつけば早20年の月日が流れていました。神様の  
 ご計画のうちに障害を持って我家にやってきた娘は、  
 これまでその時々に向う大切な方々との出会いをもた  
 らしてくれました。そのひとつが、葛西教会の皆様と  
 の出会いです。私も家族の信仰を深めるとともに、  
 いつも娘をあたたく見守り、育んでくださったこと  
 を心より感謝申し上げます。小柄ながらも、ひとりの  
 大人であることを常に意識して、接していかなければ  
 ならないと改めて感じました。

これからも神様のお導きの中で、  
 日々、愛らしい笑顔で過ごす事が  
 出来まうように。(母)  
 神のなさることは  
 すべて時になつて美しい

## 祝成人式

マリアモニカ大津里恵子

このたび無事に成人式を迎える  
 ことができました。早いもので葛  
 西教会で洗礼を受けて20年がた  
 ちます。これまで大きな病気にか  
 かることもなく、健康で無事成人を迎えることがで  
 きたことに感謝しています。私をここまで育てて、いつ  
 も見守ってくれた家族にも感謝しています。今までの感  
 謝を込めてこれから少しずつ恩返しをしていこうと思  
 っています。まだまだ未熟ですが、これから宜しく  
 お願いします。

アグネス法月由加

子供の頃から、「20歳」という歳に対して、とても  
 成熟した大人のイメージを持っていました。お酒が飲  
 める、煙草が吸える！そんな漠然としたイメージでは  
 ありませんが、兎にも角にもこんなに早く自分が20歳  
 を迎えるとは、今でも実感がわきません。  
 成人してから実際の生活に大きな変化があるのかと

マリア阿久津麻衣

いえば、別段ありません。今までと変わらない日常に、  
 成人したという事実すら忘れてしまいたいそうです。  
 しかしこれから社会へ出ていく中で、その変化はだ  
 んだん分かるようになるのではと思っています。様々  
 なことが自分の判断で出来るようになって同時に、責  
 任が大きくついてまいります。そのことを自覚しながら、  
 これからも大人の階段を少しずつ上っていければと思  
 います。

また、ここ数年、復活祭やクリスマスミサなど行事  
 には行くものの、普段から教会へ足を運ぶことは、忙  
 しさにかまけてほとんど減っていました。そんな私が、  
 成人のお祝いをしていただいてもいいのだろうか。お  
 祝い当日は心のどこかでそう思いながら、教会へ向か  
 いました。

しかし、教会の皆様は今までと変わ  
 らない温かさで、私の成人を祝って  
 くださいました。私は改めて、「教会」  
 という存在の大きさ、その優しさをひ  
 しひと感じました。  
 皆様、温かいお祝いをありがとうございました。

マリア森山洋子

私は成人式を教会でお祝いしてい  
 だいて、とてもうれしかったです。本  
 当にありがとうございました。

みなさんに祝福して頂き、うれし  
 さと、いつそ自分がひきしまる想いがし  
 ました。成人というひとつの節目を迎えて、何事にも  
 責任がつけよう年になったのだなあと感じました。  
 また、成人を迎えて、両親と、改めて今まで出会った  
 すべての人に感謝したいと思いました。幼少のころよ  
 りお世話になった方はたくさんいらっしゃる、自分自  
 身では気がつかないところでお世話になった方もたく  
 さんいらっしゃると思います。ここまで20年間生き  
 てこられたことに、本当に感謝します。

今、大学で社会福祉を学んでいます。人とふれあ  
 う中で、たくさんものを学び吸収できているなあと感  
 じています。もっとボランティアや実習を行い、勉強  
 をしていきたいと思っています。

これからは責任と感謝を忘れずに、人生を一步一步  
 あゆみ、大学生活を日々充実したものにしていけるよう、  
 頑張りたいと思います。

